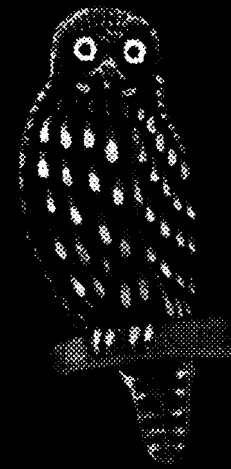


しんせう

第18号



1997年8月

(財) 日本野鳥の会三重県支部



目次

今月の表紙 神宮の森のアオバズク 小松 康成

伊勢におけるツバメの繁殖調査より	3 - 5
企画部だより	6
事務局だより	7
悲しい思い出	8
ツバメの特殊防寒	9
ツバメの巣	9
子供と自然	10
シロチドリに思う	10
おせっかい	11
夏の鳥（俳句）	11
梅雨あけの朝	12
私の探鳥記録	12
探鳥会報告	13 - 14
ナショナルトラストを始めます	14
お願い	15

ツバメが好きな町は
～人のにぎわいと水辺と緑のある町～

(第 2回 伊勢におけるツバメの繁殖調査より)

南勢地区ツバメ調査グループ

1994年の第 1回調査に続いて、今年（1997年）第 2回目のツバメの繁殖調査を行いました。①旧市内（面積約239ha）、②郊外住宅地域（面積約221ha）、③海岸・河口地域（面積約132ha）、④おはらい町（面積約16ha）、⑤山村（面積約52ha）の五つの地域で、5月中旬から 6月末にかけて、一番子の繁殖を中心に実施しました。



1. 巣の数と巣のある建物

どんな建物に巣がついていたかを地域別に整理すると、図1. のようになります。

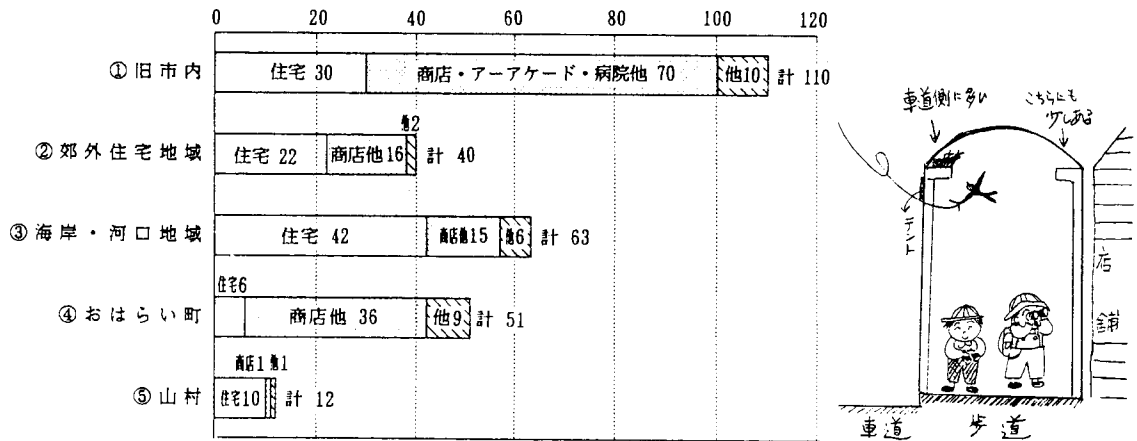


図1 地域別の巣の数

- 巣の数は全部で 276で、最も多かったのは旧市内、続いて海岸・河口地域でした。
- 巣が最も多くある建物は、商店・アーケードなどの 138（全体の50%）でした。

2. 巣の密度

建物 1軒当りと面積 1ha当りの巣の数を巣の密度とし、計算しました（表1 参照）。

表1 巣の密度

調査地域	巣の密度		第1回調査時の 1ha当りの密度	密度の増減
	建物 1軒当り	地域面積 1ha当り		
①旧市内	1.06巣/軒	0.46巣/ha	0.48巣/ha	- 0.02
②郊外住宅地域	1.08	0.18	0.20	- 0.02
③海岸・河口地域	1.19	0.48	0.41	+ 0.07
④おはらい町	1.76	3.19	3.06	+ 0.13
⑤山村	(1.00)	(0.23)	—	—
平均	1.18	0.43	0.42	+ 0.01

- 1ha当りの巣の密度を前回と比べると、地域別の傾向に大きな変化はありませんが、海岸・河口地域とおはらい町が少し増加しています。これは、ツバメの繁殖にとってより条件の良い地域に集中していく傾向を示しているように思われます。

3. 人のにぎわいと水辺と緑のそろった町～おほらい町～

- 五十鈴川と神宮の森、人のにぎわい、ツバメを見守るやさしい人々…とツバメの営巣に必要な条件がそろっており、伊勢ではいま最もツバメが沢山いる町です。1993年におかげ横丁ができて町並み整備が進んでからは、いつも観光客でにぎわっています。特に巣の多いのが、このおかげ横丁の近辺です。
- 日中、常に人の目があるため天敵から守られ、繁殖成功率が非常に高いようです。
- 店の中の営巣を暖かく見守っている赤福本店にはなんと 8つもの巣があり、お餅を食べるお客の目を楽しませてくれます。
- 1巣当りのヒナの数 は表2 のように、平均 4羽でした。

表2 巣にいるヒナの数

1巣当りのヒナの数	巣の数
2羽	2
3	7
4	35
5	12



4. アーケードに集まるツバメたち～浦之橋商店街～

- 長さ約 250mの浦之橋商店街のアーケードに、3年前の調査では、新築のアーケードに 4つの巣がありましたが、今回は26もの営巣中の巣がありました。この周辺のツバメたちが 3年の間に、このアーケードに営巣場所を移したものと考えられます。
- なぜツバメの巣がここに集中したのでしょうか？ 次のような理由が考えられます。
 - a. 巣が通行人からは見えるが、カラスからは見えにくいアーケードの形状である。
 - b. 日常的な買物客で、商店街の人通りが多い。
 - c. 近くに外宮の森や池、連随山など、良いエサ場がある。
- 浦之橋商店街の状況は、図2 のようになっています。

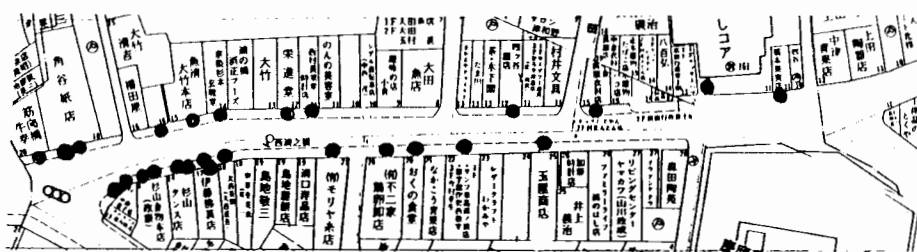


図2 浦之橋商店街の巣の位置とアーケードの形

5. 水にかこまれた町～大湊～

- 大湊では前回調査の 1.4倍の37の巣が見つかりました。ここでは、養魚池や田畑を埋め立てて次々と住宅地が造成されており、ここに新築された住宅の軒下や外壁にツバメが営巣場所を広げてきたからです。
- 内陸の同じような郊外住宅地では、少ししか営巣していません。その理由としては、次のようなことが考えられますが、本当の原因は何なのか？ 今後の課題です。

- a. 海と川にかこまれ、エサが豊富で、ツバメに好まれる地域である。
 - b. ツバメの繁殖時期、天敵であるカラスの襲撃が少ない（カラスのエサも豊富?）。
 - c. この時期、カラスの数が少ない?（近くにカラスの集団ねぐらが無い）。
- o 調査のとき、巣立ち真近い 7羽のヒナが巣から溢れんばかりに並んでいるのが観察されていますが、これもエサが豊富なことを示しているように思われます（7羽は今回の最高記録）。



6. 屋内に巣をかける山村のツバメ～矢持町～

矢持町在住の西井隆男さんの協力で、矢持全戸の調査ができました。

- o 9巣のうち、軒下は 2つしか無く、後は家の中 2、納屋 3、車庫 2と屋内の巣が78%もありました。山村ではヘビの被害が非常に多く、軒下での繁殖成功率は低いので、屋内の営巣が多くなったものと思われます。
- o 「ツバメの巣を見ながらお風呂に入る」、「ガラスを 1枚外してツバメの出入口にしている」といった人の暖かさがあるから、ツバメがきているのかもしれない。
- o 9巣のうち、8巣でそれぞれ 5羽のヒナが巣立ちました。条件の良いおはらい町の 4羽よりも多いのは、山にかこまれ、横輪川が流れる矢持町はツバメのエサに恵まれているからでしょう。

7. おわりに

今回のツバメの繁殖調査は、第 1回調査を下敷きに行いました。前回の調査ポイントに行ってみると、やはりそこにツバメが帰ってきていて、同じ所に帰ってくるツバメの律義さに感心しました。それは人間から見るとどこでもよさそうな営巣場所ですが、ツバメから見た場合は選択範囲がとて狭いことを示しているのかもしれない。

空き家や店じまいした商店からはツバメの姿が消え、車が走り抜ける大通りよりも人通りが絶えない商店街にツバメが多く、閑静な住宅地には少ないのです。また、過疎化している山村でも、暖かい人の気持ちがあればツバメがやってきます。

ツバメがくる町は、人のにぎわいややさしさ、水辺と緑のある町だと感じます。それは人にとっても暮らしやすい町ではないでしょうか。

8. 調査参加者（あいうえお順）

小坂里香、下和田幸子、杉浦邦彦、世古口有司、中村みつ子、西井隆男、西村 泉、橋本祐子、長谷川益美、林 淳子、藤本幸也、山川尚子、山田昭子、吉居 清、吉居瑞穂

（文責：吉居瑞穂）



企画部だより

企画部は 探鳥会をはじめ、研修会、野鳥講座、バードウィークのイベントなどの企画、運営について関わっています。

探鳥会

各地区で様々な形で
行われています。
野鳥の会で柱になる活動です。
初めの一步は やはい
これに参加して
もらうことでしょうか！

研修会

年1~2回リーダーのみならず
関心のある人は たくさん参加
して下さい。
今年度は '98年1月25日(日)
安曇川河口探鳥会のあと
「フィールドノートのつけ方、まとめ方」
をテーマに行います。

野鳥講座

- ④ 4月20日、総会のあと
「減少する野鳥たち」に
ついて伺いました。
- ⑤ 12月14日、二つ池探鳥会
のあと「カモ」をテーマに
行います。きてね！

交流会

今年度は 各地区で探鳥会の
あとに行う予定です。
9/28 鈴鹿川派川(北勢)
11/16 白猪山(松阪)
11/30or2/16 真泥池(伊賀)
12/23 安曇ダム(津)
2/8 穴川(南勢)
他の地区に
参加しても良いのです。
いくつでもどうぞ！！

バードウィーク

☆テグス拾い探鳥会

今年度は5月11日 磯津

5月10日 榎田川、愛宕川

探鳥会のあとで行いました。

ちっとも減らないのはなぜでしょうか？

☆NHKキャリアーで写真展

「テグスを捨てないで」

「減っていく野鳥たち～レッドデータ三重の鳥」
がテーマでした。見学者140名は千ト少ないね。

会場ボランティアのみおさんび苦勞様でした。

赤坂美代、岡八智子、小柳朱美、斎藤加代子
阪口守、杉野幸子、高和義、高木和夫、竹内夏佐子、谷本勢雄
中村洋子、榎原素、西口章一、西村泉、逢矢博一、橋本富三
長谷川益美、林淳子、藤田克三、宮田たつ、山田昭子

企画部員

尾地玲子、橋本富三、小坂里香
村田芳雄、中村洋子、西村泉
矢田崇史、逢矢博一、橋本祐子

事務局だより

「バードメイト」ご協力をお願い

☆「バードメイト」は一口千円で気軽にできる自然保護活動。

☆あなたの千円は日本野鳥の会の「里山の自然と野鳥を守る」活動を支えるために使われます。

☆あなたのお名前は「バードメイト」として登録し、会の活動報告をお送りします。

☆ご登録の記念に里山に暮らす小鳥をイメージしたピンブローチをお届けします。

【お申し込み方法】

本部会員センターに直接お申し込みください。

☆電話:03-3463-8841 (月～金 10:00～17:00)

FAX:03-3463-8844

ハガキ:〒150 東京都渋谷区南平台15-8

ウッディ南平台ビル2階

(財)日本野鳥の会バードメイト支部係

☆ご希望の口数をお知らせください。口数分のブローチをお届けします。

【お問い合わせ】

本部会員センターまでお願いします。

電話:03-3463-8842

◆特別会員について

☆正会員や普通会員から特別会員に変更される場合や、入会時に特別会員になれる場合は、ぜひ三重県支部事務局にご連絡ください。支部を通して特別会員になっていただくと、支部に会費の一部が還元されます(直接本部へ連絡されると、支部への還元はありません)。

☆連絡先:木村京子 TEL

◆三重出前トーク

☆行政側から環境基本計画や政策の方向などについて、住民や関係団体に意見を求める場合が最近増えています。こういう機会には、環境問題や自然保護について意見を述べていきましょう。黙っていても私たちの意見が行政に通じません。

☆この秋には「みえ出前トーク」という新しい試みが三重県によって実施されます。これは県の各部署ごとに用意したテーマについて、20人以上集まれば、県の幹部が出かけていってお話ししますというものです。三重県支部もこの出前をぜひ利用したいと考えています。20人以上集まる集会等で、出前トークの目的にあうものであれば、地域の会合やサークル等でも利用できるようです。詳しくは三重県広報公聴課へお尋ねください。

☆三重県広報公聴課 出前トーク担当

〒514-70 津市広明町13

TEL 059-224-2031, FAX 059-224-2032



悲しい思い出

小川美津(四日市)

1994年4月に初めてツバメが巣を作り、6羽無事巣立って素晴らしい感動を覚えた日から、ツバメは私にとって大好きな気になる鳥となりました。翌年の1995年のとても悲しい思い出を聞いてください。

H7. 5. 20記

去年のツバメの観察はとても楽しい思い出として今も心に残っていますが今年はツバメのお宿の車庫を都合により店舗として改装し全く変わってしまった所へ南の国から一生懸命飛び続けて帰ってくる鳥たちに申し訳ない思いでいっぱいでした。

深めのテントがついてるのでせめてテントの中へ板など打ち付けて巣作りの手助けにと電気屋さんにかけていただきました。

4月7日、来た来た去年の我が家のツバメたちが……。でもあまりの変わり様に板の上へ乗り半日ほど思案してどこかへ飛び去りました。5日程すると一羽飛んできてすぐ去り20日頃また1羽来てやっと気に入ってくれたのか、二日目はつがいで各自分の好きなところへ泥を運び巣作りを始め立派な大きな巣になりました。

去年のツバメ夫婦はとても喧嘩が多く気になりましたが今年はメスと思われる方が幼い感じでもっとも仲がよく見とれていたものです。巣が完成すると大空を2羽で飛んだり楽しいデートを重ねている感じでした。

5月連休終わり頃から巣にこもり卵を生んでいるらしい様子でどうなのか見てみたいと思いましたが見ませんでした。時々暖めている様子も見られるようになり今年も楽しいヒナの声が聞こえるかと胸わくわくしていたら、5月13、14日に近くで万古まつりがあり花火、車、人の声十万人位の人々の出入り、夜十時過ぎまで大騒ぎで雨も多く、この夜は一晚中降り続き、いつもメスはテントで眠るのに、こわかったのかオスと共に雨の中を巣から10メートルくらい離れた木蓮の葉先で寝ていました。気になり次の朝5時過ぎに起きて見に行くとどうも様子が変わりました。なんだか飛べない様子ですの前の家のひさしの先でじっとして低

空をパタついて飛ぶ感じで、これは病気だと直感しました。気を付けて観察していると巣のそばへとまるのがやっとならぬ中へはいる気力もない様子で15日夜から行方不明となりました。オスは一生懸命鳴いて呼んでいただけで帰ってこないのいつもの木蓮の先で眠っていました。オスも元気が出ないのか、さえずりがなくピーピーと悲しげな声で鳴いていました。次の朝はオスも私も周りを一生懸命さがしましたがいませんでした。

2日程すると他の相手を見つけて連れてきたように巣を二羽でじっと見つめていました。私も決心して巣の中の前に生んでいるであろう卵を取ってあげようと巣を見ると4個の卵がありました。それを取り除き様子を見ていたら巣に卵がなくなっているのを見たツバメはどこかへ飛び去ってしまいました。

私の独り合点で卵を取り除きツバメに迷惑をかけてしまったと大いに反省、後悔しました。

18日我が家の近くの公園口で午前10時頃車にひかれてぺしゃんこになったツバメを

見つけ、涙が止まりませんでした。すぐ拾って公園に埋めました。可哀想なツバメさん、今でも思い出すと悲しくなります。

自然界の生き物は強くないと生き残れません。これからも愛するツバメたちを見守っていきます。
H9.7.2記

今年は皆さん言われるようにツバメの数がとても少ない気がします。

3月下旬から気をつけて観察していましたが、本郷町の人家近くで2羽3月29日に見ました。6月中旬ごろ5羽くらいその付近で飛んでいたの巣立ったのだと思います。又、本郷町の小沢陶芸所の車庫で毎年巣作りしています。今年も一番子が4羽巣立ちました。今2番子が育ちつつあるようです。

3年程前までは至る所ツバメの美しい飛び姿が見られ胸おどる思いでしたけれど、今年は伊坂ダムにも少ないようすがっかりしています。やはり渡りの数が少なかったのだと思います。



ツバメの特殊防寒 二宮 孝 (四日市)

古本屋さんで「野の鳥の生態」という3巻からなる本を求めて参りました。著者は、仁部富之助で秋田県の農事試験場でお米の研究をしていた人で、余技に野の鳥の観察をし、それを本にまとめられたそうです。(編集部注*復刻版あり)ちなみに、巻末に昭和16年4月28日初版発行、定価1円50銭、送料20銭と記されています。

その中にツバメの特殊防寒という文章がありましたのでご紹介させていただきます。(以下抜粋)
”秋田地方にツバメが姿を現すのは、3月末か4月の上旬頃である。その頃はまだ往々にして残雪がなお深く夜々霜を置き、しばしば気候激変して不時の降雪を見、吹雪を飛ばすような事もある。気温が摂氏5℃から4℃になった時、彼らは巣に潜り込み遂には夫婦とも巣内に重なり合って深く体を沈め、そのまま寒さの去るまでじっとそのまま飲まず食わずの巣ごもりをして大抵の寒さは斯くして凌げる。

4月2日事務室ではストーブが久しぶりに赤々とたかかれていた。午前10時の気温は5度3分、丁度2月末頃の温度である。

著者は、夕方になって小山宅を訪ねた。同家の人が先ずあれを見よという、言われるままに指差された巣に目をやると、忽ち異様な光景に撃たれてしばし呆然として口をきく余裕さえなかった。それは普通より小型な巣に、数羽のツバメが齧詰めになって、死んだように微動だにもしない有様を見たからである。耐え難い不時の寒さに見舞われた場合、夫婦だけの巣ごもりよりも斯く、3羽4羽5羽……と同じ巣内に1羽でも多く入れば、それだけ彼ら全体としての総温量が羽数に比例して増加し体温の発散や精力の消耗は通減し、非常に合理的で且つ効果的である。

したがって、2羽だけでは凌げぬ寒冷も斯く多数の抱擁によって楽々過ごせるわけである。

もっともこれは特殊な例であって団体生活期はともかく、まだ産卵前とはいえ、すでに繁殖期に入っているのであるから常時に行う防寒術でないことだけは事実であろう。”と著しています。

今も尚、この光景が秋田地方で見られるならば地球温暖化の心配はないかもしれない。

ツバメの巣 二宮 孝 (四日市)

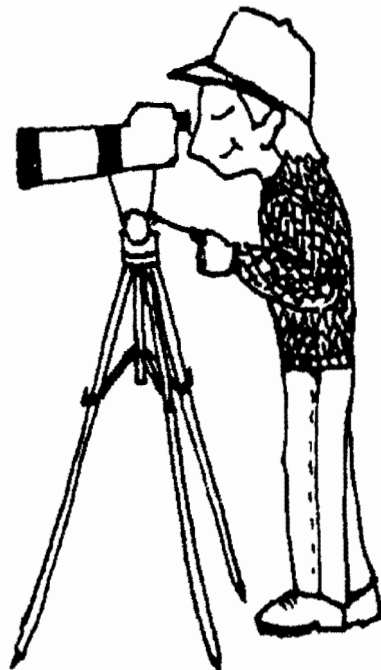
6月20日台風7号が三重県南部に上陸すると、昨夜来ひっきりなしに放送しています。

ところで、私は2年目の野鳥の会の会員です。しかしひよっとすると会員の資格がないのかもしれないと、申しますのは、台風一過、太陽がキラメク青空の下、風雨の影響がなかったかと、家の周りを見てみました。別に異常はないようです。ところがビックリ、2階の軒下にツバメの巣が出来ていて、親鳥が餌を持って帰ってくる度に、ヒナが大きな口を開けて大騒ぎをしているではありませんか。迂闊にも私は1ヶ月以上も気がつかないのです。

子供の頃から、ツバメが巣を造るのは、お金持ちの家で、東か南向きの玄関の軒付近とっていました。ですから、近所で新築をしたが玄関を汚されるのでビニールでカバーをして、巣が出来ないようにしている家もあってちょっともったいない気がしていました。

私は、出来たら出来たで良いという積もりでしたが、今までツバメに敬遠されてきたのです。

巣は、建物の北側にあり、2羽のヒナは暴風雨の間、腹を空かして親鳥の下で震えていたことでしょう。後は元気に巣立ちをして、来年もまた来てくれることを心待ちにしようと思います。それともうひとつ、ひよっとするとお金持ちになれるかもしれないと言う淡い期待もして巣を見上げています。



子供と自然

市川 雄二(四日市)

私の幼少の頃(昭和2~30年代)は、野山を遊びの場としていた。先輩に誘われて、数人のグループで遊んだものだ。小川では、川をせき止め水をかい出してモロコヤフナ、ドジョウなどの魚をつかまえた。山では、カブトムシをよく捕ったものだ。虫かごにいっぱいになった。コナラの木には3~4頭のカブトムシがいた。そこには決まってスズメバチもいた。石を木にぶっつけてス



ズメバチを追い出しては捕るのであるがスリルがあった。ハチは興奮してまるで戦闘機のごとく

我々に向かってくるのである。

家の前の道は東海道53次の街道だったところで、当時、夏の夕方にはオニヤンマが行き来していた。そのオニヤンマを捕るのが面白かった。20センチほどの糸両側に小石をくくりつけそれを頭上に近づいたオニヤンマに向かって放りあげるのである。オニヤンマは餌と思い、一瞬近寄るが、糸に絡まるとそのまま墜落するのである。

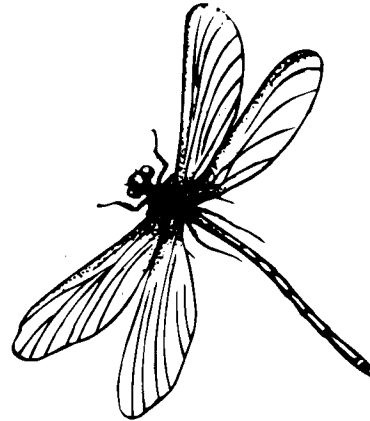
今となってはかわいそうな気もするが、良き思い出の一つであると同時に、野外から学んだり、体験したりしたことは一生の宝だと考えている。

時代が進むと共に、このような遊び場所は危険であることなどを理由に行かなくなった。公園ができ、公園で遊んでいる。しかし単調であるため人気はない。最近では屋外で遊ぶ子は珍しく、大半は塾通いをしたり、屋内でゲーム遊びをしたりしているのが現状である。

まさに人工的な環境での問題行動が生じていると思われてならない。いじめ、登校拒否、短絡的行動、自己中心的な考え方などは、まさに自然から離れることによる問題ではないだろうか。私たちは自然から多くの恵みを受けている。一方激しい自然もある。暑いから寒いからといって、勝手に言うてはいられない。また醜い人間の争いや逃避においても、自然の存在を忘れた結果の産物と思う。

今、自然の大切さが叫ばれ、長良川河口堰、徳山ダム建設、諫早湾の堤防締め切り、愛知万博、藤前干潟などの問題が環境の立場から流れが変わるきっかけになっていることは一歩前進である。各地では自然に関する講演会、シンポジウム、自然観察会が行われつつある。学校では、年一回では

あるが、昨年から学校環境の日を設け、自然を理解したり親しんだりする取り組みが行われている。環境庁では〇こどもエコクラブを設立し、市町村で自然環境はもちろん、ゴミ問題や消費に対してどう考えるか、また行動するかの取り組みが行われている。今後これらの内容をさらに充実していきけるようなカリキュラムの検討および指導者が必要と思われる。野鳥の会もこれからますます時代の要請を受け、学校や公民館活動の場で子供や市民に対し、自然に関する啓蒙の中心的存在となろう。



シロチドリに思う

尾畑玲子

吉崎シロチドリ保護監視・観察に参加した。吉崎のシロチドリ保護区ではコアジサシがコロニーを作っていてにぎやかだった。保護柵の外側でシロチドリをカウントしている私たちをコアジサシが偵察にくる様子は戦闘機を思わせる。少しでも巣に近づけば、頭上をかすめて攻撃してくる。フンを浴びせることもあるという。上空に進入したハシボソガラスに激しく攻撃して追っ払っている光景も見た。

シロチドリはこうしたコアジサシのコロニー内に営巣することにより自分たちの無防備を補っているらしい。シロチドリの自己防衛は、見通しのよい砂地に巣をかまえること、外敵が近づくと巣から離れて卵の存在をわかりにくくすること、あるいはヒナから離れて擬傷行動によって敵の目をそらすことぐらいだ。巣も全く無防備だから4駆車やオートバイが進入すればたちまち「アウト」である。追い打ちをかけるように彼らの営巣地そのものが人工的な開発によって減っていく。

今、「自然に親しむ」とは「私たちが彼らになにをしてやれるかを考える」ことかもしれない。

おせっかい

二宮 孝 (四日市市)

7月13日、梅雨前線の活発な影響で、九州地方に大雨を降らし、崖崩れなど大きな被害が出ています。特に出水市は鶴の飛来地でもあり一度は行ってみたい所なので、よけい気の毒に思われてなりません。

この地方も雨が降り続いて人間にもカビが生えてきそうな鬱陶しい毎日です。

餌台も、びしょ濡れで元気がありません。冬季以外に餌をやることはいけないことと知ってはいますが、時々残り物を置かしてもらっています。

長雨で、スズメも食事に困っているかもしれないと思い、雨に溶けたり、流されてはいけないと、クラッカーを大きなままで数枚置いてやりました。

ところが、直ぐ4羽から5羽のスズメが集まってきて餌を啄み始めましたが中の1羽が1枚そのままくわえて巣に戻っていきました。予想外の出来事で、一時唖然としました。開いた口が塞がらないとはこの事でしょう。あわてて、餌台の所に行って、クラッカーを取ってきて天秤で重量を量ってみましたら4.7gありました。メーカーを信用すればスズメがくわえていった物と同じ重さと思われます。

以前に読んだ記事にスズメの体重を計量したところ23gあったと書かれていました。これから推測しますと60kgの人間が12kg以上の物をくわえて走ったことになり、顎の力では人類が負けるかもしれません。

口惜しいのでこれから餌をだんだん重くして行って、どこまでの重量を運ぶことが出来るか観察してやろうと思いはじめています。

2度ほど餌を補給したあと急にスズメがいなくなりました。突然ハシボソガラスの奇襲です。1羽が餌台に舞い降り餌をくわえて飛び去りました。急いで庭にでたところ、もう1羽が驚いて逃げるところでした。50mほど離れた電線にとまり、その中の1羽が私の方を向いてガアガアと恨めしそうに鳴いていました。いい気味だ!!

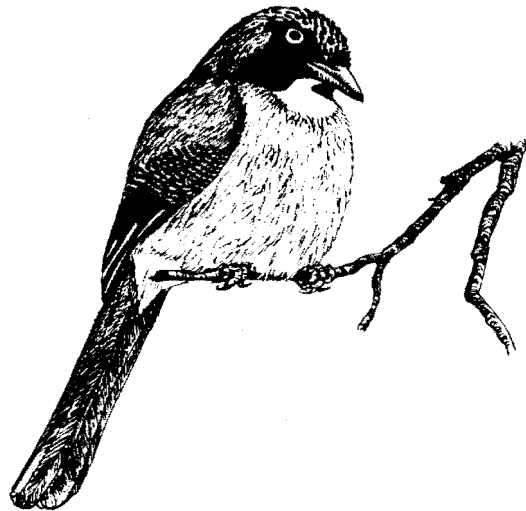
しばらくするとスズメが戻ってきました。スズメにも色々いて、餌台に来て適当な大きさの餌をくわえて一直線に巣に戻っていく者、取り敢えず自分が先に腹一杯食べる者(1度細かく砕いて雛に食べさせるのかもしれない)。わざわざ

ざくわえた物を直ぐ下の地上に降りて食べ始める者、柿の枝に止まっていてなかなか降りてこない小心な者、周りのスズメを追い散らす凶々しい物、又、羽に濃淡があってそれぞれに個体差がみられ、面白い時間を過ごしました。

ある程度皆が満足してあまり餌台に近づかなくなった頃、雛を連れた母親(?)がやって来ました。そして口移しに柔らかくなったクラッカーを何回も与えていました。

双眼鏡で見ると翼は親鳥よりも短いのですが身体全体としては雛の方がフックラとして大きく見えるのが不思議に思われてなりません。食べ終わった雛は柿の枝に止まって悠然と羽づくろいをしています。親鳥と比べてあまりにも無警戒なので見ている方がはらはらしてきました。親子連れが飛び去った時点で本日の給食は終了になりました。

よく探鳥会で鳥合わせの時スズメ何羽と言うのに半ば白け気味になることは大変失礼なことと反省させられる半日でした。



夏の鳥
小綾鶏や誘われるまま森深く
大瑠璃の飛来信じて大枯木
換羽がらす日頃の威勢消え失せし
杉冥らしひらひらさせ三光鳥
虎鶉常に二十歩先駈ける
白千鳥大口開けて抱卵す
懸巢啼くしじまを毀す濁みの声
黒鶉姿はみせず森征す
老鶯や瀬音バックにおらが春
阪口 守

梅雨あけの朝

村田芳雄

梅雨のあけたさわやかな朝、いつものようにジョギングのルートをたどって公園のバーゴラのある所まで来ると、斜め後ろの方から「ガオガオ」という変な鳴き声がしてきました。もどってみるとバサバサと二羽のカラスが飛び立ち白樫の枝に止まりました。一羽は近くに止まり、もう一羽は自分より離れて木の茂みの中でしきりに「カアカア」「カアカア」と鳴きたてました。近くのはそれ程でもなく「アア、アア」と鳴きました。やや小振りでもあるし、これは幼鳥だなど思いました。姿が見えているので、私が「アア、アア」と鳴くまねをしてみたら、こちらの方へひよひよいと枝を渡り近寄ってきて「アア、アア」と鳴くではありませんか。あいた口の中は赤くまぎれもなく幼鳥です。

もう一方の方は「カアカア、カアカア」と鳴きたてていましたが、子供が人間の方へ近寄っていくのを見たのか、幼鳥のそばの木の枝にバサバサと飛んできて姿を現しました。そして狂おしげに「カアカア、カアカア」と鳴き騒ぎました。嘴が鉤型に曲がり頭頂の毛が乱れた大きなハシブトでした。

その時、その騒ぎを聞きつけたのか別のもう一羽のハシブトが蝉らしき虫をくわえて、二羽の止まっているすぐそばの木のてっぺんに止まりました。「あ、虫をくわえているな」と思った瞬間、口をあんぐり開けて嘴の中へ放り込んでしまいました。その時幼鳥がパタパタと飛び立ち、そのハシブトのそばの枝に止まり「アア、アア」と鳴いて餌をねだるではありませんか。

そこまで見ていましたが、あまりカラスのおじゃまをしてはいけないと思ってジョギングを再開しました。

さて、あの二羽の成鳥は幼鳥の親なのだろうか。虫をくわえてきたのは雄なのだろうか。激しく鳴き騒いでいたのは雌なのだろうか。こちらが「アア、アア」と鳴くまねをしたら近づいてきて、「アア、アア」と鳴いた幼鳥は何とかわいいではありませんか。そして成鳥がくわえて

きた虫を幼鳥に与えず、自分で食べてしまったのは、幼鳥が人間に近づいた事への「おしおき」ではなかったのでしょうか。



私の探鳥記録

久住勝司（一志郡）

- | | | |
|-------|--------------|-----------|
| 4. 27 | ハリオアマツバメ 3 | 紀伊長島町荷坂峠 |
| 5. 05 | オシドリ 2 | 美杉村 |
| 5. 11 | サンコウチョウ 1 | 奈良、春日原始林 |
| 5. 18 | シロチドリ(交尾中の番) | 河芸町豊津浦 |
| | チュウシャクシギ 6 | |
| 5. 25 | オオタカ サシバ カケス | |
| | コシアカツバメ (各1) | エコリゾート赤目 |
| 5. 27 | カイツブリ幼鳥 8 | 嬉野町中村川 |
| 5. 31 | イワツバメ 6 | 吉野大滝 |
| | センダイムシクイ 1 | |
| | ソウシチョウ 2 | ～大台ヶ原 |
| 5. 31 | キバシリ 1 | |
| | ゴジュウカラ 1 | |
| | オオアカゲラ 2 | |
| | コマドリ 1 | |
| | ミソサザイ 3 | |
| | ヒガラ 5 | 大台ヶ原(西大台) |
| 6. 01 | ジュウイチ 1 | |
| | ツツドリ 1 | |
| | ホトトギス 1 | 和佐又山 |
| | オオルリ 4 | ～大普賢岳 |
| | コルリ 1 | |
| | メボソムシクイ 4 | |
| | エゾムシクイ 1 | |
| 6. 08 | ヒドリガモ 1 | 三雲町 |
| | チュウサギ 12 | 喜多村新田 |
| 6. 14 | アオゲラ 2 | 野登山 |
| | アオバト 2 | |
| | クマタカ 1 | |
| | ホトトギス 1 | |
| 6. 21 | コチドリ 2 | 三雲町加公園 |
| 7. 19 | アカハラ 3 | 軽井沢野鳥の森 |
| ～21 | クロツグミ 1 | |
| | ノジコ 1 | |
| | オオルリ 1 | |
| | カッコウ 1 | |

○愛宕川、櫛田川探鳥会 (松阪市)

- ・日 時：1997年5月10日(土) 9:30～12:30 晴
- ・担 当：谷本勢津雄 中村洋子
- ・参加者：26名
- ・観察種：36種

キアシシギ イソシギ ツバメ スズメ アマサギ コサギ ダイサギ コチドリ
ムクドリ セッカ アオアシシギ ケリ ハシボソガラス チュウシヤクシギ
トビ ホシハジロ オナガガモ ハシビロガモ ユリカモメ ソリハシシギ ダイ
ゼン オオヨシキリ ヒドリガモ ハクセキレイ カワウ アオサギ コアジサシ
ヒバリ カルガモ モズ オオソリハシシギ ハマシギ カイツブリ ドバト
昨年は330g (テグス) 今年は400g (テグ
ス5200m) 拾いました

○五十鈴川 (神路川) 上流のラインセンサス

- ・日 時：1997年5月17日(土)13:00～14:03 晴
- ・担 当：杉浦邦彦 林淳子
- ・参加者：32名
- ・観察種：8種

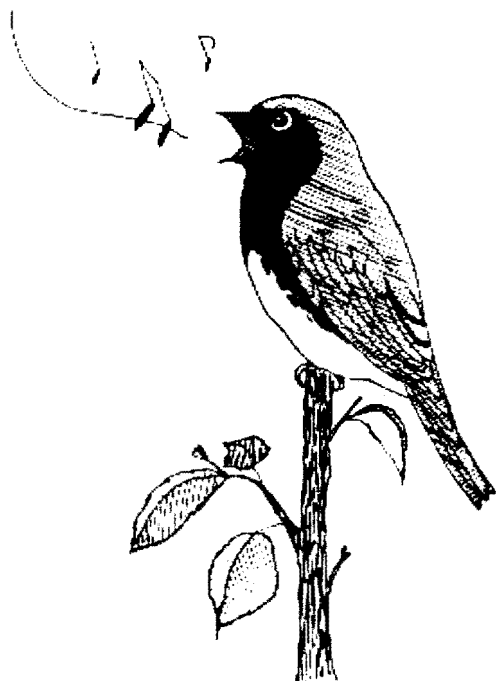
ツバメ スズメ ヒヨドリ シジュウカラ ササゴイ メジロ ハシブトガラス
カワラヒワ
想像していたより種類、個体数が少ない 河川改
修の影響か 周辺の緑は多く美しい

○亀山水曜探鳥会

- ・日 時：1997年5月21日(水) 9:00～12:00
雲

- ・担 当：伊藤多紀子 楢原葵
- ・参加者：13名
- ・観察種：22種

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ ケリ コジュケイ キジ
キジバト カワセミ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス メジロ ホ
オジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス ドバ
ト
毎月楽しんで参加させていただいていたが4ヶ月
も休みだと寂しい 公園の北側の崖に白糸草が生
えている 参加者の方が山へ行かなくてもここで
見て行くわ カラスの幼鳥が数羽遊んでいる 嘴
もまだまだ柔らかい色をして口の付け根も黄色が
残っている 飛び方もおぼつかなくて2～3mの
低木に止まる練習をしている様子を観察した 又、
親が離れたところから見守っていることを感じ
取ってもらった 森の中では「耳をすまして」小
鳥の声を聞くと同時に自然界の音を聞こう 遠く
でコジュケイやキジの鳴き声ツバメ、メジロの声
も聞こえてきた



○藤原岳山麓探鳥会

- ・日 時：1997年5月24日(土)9:00～12:00 雨
- ・担 当：楢原葵 村田芳雄
- ・参加者：8名
- ・観察種：17種

ゴイサギ ツツドリ コゲラ ヒバリ ツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ カワガラス ウグイス ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ごく近くでコゲラをゆっくり見ることが出来た
平日は学校があるので、入会してから一度も出席
したことがなく、今日初めて参加した

○エコリゾート赤目の森

- ・日 時：1997年5月25日(日)9:30～15:00 晴
- ・担 当：武田恵世 塗矢博一
- ・参加者：30名
- ・観察種：31種

ツバメ オオタカ キジバト ヒヨドリ ウグイス トビ ムクドリ ケリ カワ
ラヒワ ホオジロ アオサギ セグロセキレイ ヤマガラ サシバ コシアカツバ
メ ヒバリ スズメ ハシブトガラス ハシボソガラス アイガモ 声 コゲラ
キジ イカル シジュウカラ ホトトギス メジロ コジュケイ セッカ キバシ
リ アオゲラ カケス

初参加の方は31種の中で声だけでは解らないの
と確認できた中でも半分しか解らない、まして飛
んでいるところだけでも何か解らないという声か
ありました 会の方で勉強会が必要だと思う

○三重用水探鳥会

- ・日 時：1997年5月28日(水)9:30～12:20 晴
- ・担 当：矢田栄史 尾畑玲子
- ・参加者：6名
- ・観察種：18種

トビ ヒバリ キセキレイ カワラヒワ セグロセキレイ ホオジロ コチドリ
カワウ コサギ ウグイス ヒヨドリ ハシボソガラス ハシブトガラス キジバ
ト コゲラ アマサギ ツバメ スズメ

青空のもと少人数でゆっくり探鳥を楽しみました
初夏の田園風景の中にコサギ、アマサギが姿を
見せてくれ 遠くにウグイスの声又ヒバリやホオ
ジロの囀り ハルゼミも鳴いています トンボや
カマキリの幼虫も見ることが出来、沢山の生命が
輝いています

○豊津浦探鳥会

- ・日 時：1997年6月1日(日)10:00～12:00
- ・担 当：平井正志 秋田由美子
- ・参加者：19名
- ・観察種：12種

カワウ ホオジロ コサギ ゴイサギ ハシボソガラス オオヨシキリ カワラヒ
ワ ヒバリ ツバメ シロチドリ スズメ コアジサシ
シロチドリの営巣は1カ所だけであり さみし
かった

○大杉谷 調査講習会

- ・日 時：1997年6月7,8日(土、日) 晴
- ・担 当：谷本勢津雄 中村洋子
- ・参加者：4名
- ・観察種：33種

キビタキ ウグイス センダイムシクイ キセキレイ ハシブトガラス クロツグ
ミ オオルリ アオゲラ エナガ ソウシチョウ ホトトギス ツツドリ ヨタカ
ミ ムソザイ コマドリ ルリビタキ カッコウ カケス ヒガラ コルリ トラ
ツグミ ジュウイチ シジュウカラ コゲラ メボソムシクイ ゴジュウカラ ハ
シボソガラス タカスP ケラスP アオバト コガラ ヤブサメ ヤマガラ
いろいろな鳥のさえずりが聞こえ、又アオゲラ、
ソウシチョウが観れてとても良かった ルリビタ
キは、松阪では冬の地鳴きしか聞こえないが、こ
こでは美しい声でさえずっていました

○ホトトギスの声を聞こう

- ・日 時：1997年6月14日(土)9:30～11:30 晴
- ・担 当：西村泉 西村幹和

- ・参加者：21名
- ・観察種：23種

ツバメ スズメ カルガモ ケリ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス キジバト カワ
ラビウ アオサギ ヤマガラ コチドリ ホオジロ キジ カワセミ ムクドリ
セグロセキレイ メジロ コサギ シジュウカラ コゲラ ハシボソガラス ドバ
ト

鳥以外にも目を向けてもらおうと、最初に12色の色紙を各自一枚くじ引きのように引いてもらい、鳥合わせの時に同じ色で印象に残った物を一つ発表してもらった

- 緑色－肥の効きすぎた田圃の色
- 茶色－農薬のかかった地面の色
- 水色－カワセミの羽の色
- 白色－コチドリの胸の色

○五十鈴川ラインセンサス

- ・日時：1997年6月14日(土)13:15～14:05晴
- ・担当：杉浦邦彦 林淳子 小坂里香
- ・参加者：25～30名
- ・観察種：11種

スズメ ヒヨドリ ツバメ ハシボソガラス シジュウカラ コゲラ サシバ ホ
オジロ メジロ ウグイス ヤマガラ
五十鈴川の河川改修はどこまでするの、あまりにもひどい、河川沿岸の変わり方があまりにもひどい

○亀山水曜探鳥会

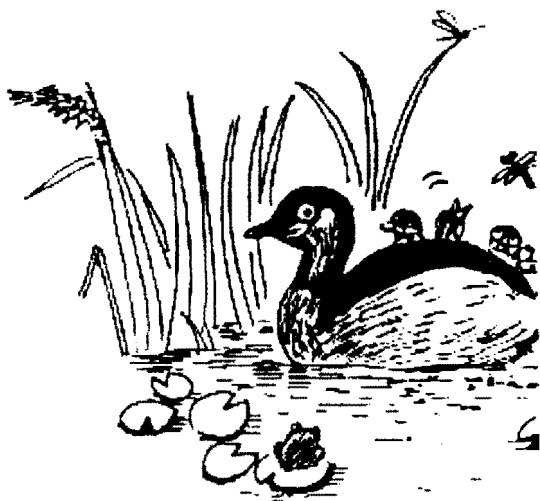
- ・日時：1997年6月18日(水)9:40～12:00小雨
- ・担当：伊藤多紀子 楢原泰
- ・参加者：9名
- ・観察種：18種

サシバ コジョウゼイ キジ ホトトギス コゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス
ヤブサメ オオルリ ヒガラ シジュウカラ ヤマガラ メジロ ホオジロ イカ
ル カケス ハシボソガラス
オオルリをゆっくり観ることが出来て嬉しい、又ホトトギスはテレビでの鳴き声は何度も聞いたが山で聞くのは初めて、感動した

○コノハズクの声を聞こう

- ・日時：1997年6月21日(土)16:30～20:30曇
- ・担当：坂元伸治 中村洋子
- ・参加者：17名
- ・観察種：11種

スズメ ツバメ ヒヨドリ ホトトギス カワガラス トビ アオバト セグロセ
キレイ ハシボソガラス エナガ ヤマガラ
コノハズクの声は聞こえなかったが、久しぶりにのんびりした時間を過ごすことが出来ました



ナショナルトラストを始めます

武田恵世

ナショナルトラストは三重県支部発足以来の懸案で総会などでも毎年のように構想をお知らせしながら実行には至りませんでした。今年日本ナショナルトラスト協会の全国大会が県で開催されるのをきっかけにいよいよ発足しました。みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



1. ナショナルトラストとは

貴重な自然や文化財の保護のため、大勢でお金を出しあって買い取り、守っていくという方法です。イギリス

で始まり、イギリスでは海岸線のほぼ全てが買い取られており、山、川、湖、農地、蒸気機関車までこのようにして保護されています。

日本では知床100㎡運動を皮切りに、日本ナショナルトラスト協会が中心となって行われており、日本野鳥の会でも、風蓮湖、鉏路湿原、仏沼、出水など各地で実行されています。三重県では赤目で、近くは愛知県桶ヶ谷沼、静岡県馬込川、滋賀県などで盛んに行われています。募金に当たっては、1人の人からの1,000\$ (約12万円)より、100

人の人から10\$ (約1,200円)ずつ集めようと言うことで、できるだけ多くの人にさんかしてもらい運動を広めることも目的に行っています。

2. その目的

我々の日頃の活動や世論の盛り上がりにもかかわらず、未だに身近な自然が日々急速に失われています。公的な保護政策(国立(定)公園特別地域、鳥獣保護区特別保護区域、緑地保全地域、天然記念物など)で守られる土地はごくわずかです。まだまだ自然が多く残されているように見えますが、相続税対策だけのため自然

林が即席の畑にされて何も育てない例や、補助金目当てに自然林を伐ってスギヒノキ苗を植えそのまま放置される例も急増しています。農業も林業も後継者不足で放棄が目立ち、一時的に自然が回復していますが、過疎化した地域はゴルフ場や最近では産業廃棄物処理場など大規模開発の適地として容易に買収されます、地主にとって自然を残しても利益にはならず、税負担だけしか生み出さない以上、自然のまま残しておいてもらうことには限界があります。このような現状ではもはや自然は守ろうと考える人が守ろうとしないと守れないのです。そのためにナショナルトラストを行い自然を守りましょう。1円でも10円でも募金をお願いします。

3. 買い取る土地

- ①貴重な自然のある場所で、公的な保護対策がとられていない場所、あるいはこうした公的な保護が当分期待できないところ。
- ②または、貴重な自然の残る核となる場所で、そこを買い取ることで全体を保護するきっかけ、あるいは、大規模開発が難しくなるような場所。(絶対売らない地主がいる地域は大規模開発の構想が起きにくくなります。) 公的保護が期待できる場所は要請のみでいいでしょう。当局が動かなくても毎年要請があるということだけでも開発の抑止になります。人跡未踏の深山や無人島より、急務となっている里山や水辺に重点を置きましょう。

4. 場所選定

委員会で主に緊急度から判断し優先順位を決定します。(開発構想が起こらない前に先手を打つことを目標にし、計画が起こってしまった場合は、反対する人の土地を支援の意味もあって買収することになるでしょう。反対者のいない場合にあって買収に乗り出すのはよほど貴重な場所である場合になるでしょう。反対運動の最中は様々な妨害などが予測されます)

5. 土地の管理

原則として自然のままにおいておくことにし、所有者を看板などで明示しておき、最低年に一度は見回り、災害、不法占拠、不法投棄に注意します。土砂崩れなど大きな災害が生じた場合には、規模に応じて関係当局に災害復旧助成を依頼します。

このようにして我々自身の手で、協力しあって自然を守って行きましょう。

以上のナショナルトラスト計画にご意見やご質問のある方は、電話かファックスで武田までご連絡ください。答え用の空欄入りのファックスの方がありがたいです。

TEL, FAX 共通
昼
夜



お 願 い

コニカのパッケージエイドにご協力ください。コニカのフィルムの空き箱を送ると、コニカより1箱につき20円が日本野鳥の会に寄付されます。このお金は北海道鶴居村のタンチョウヅルの保護のために使われます。昨年(11月30日)は199万円あまりが寄付されました。三重県支部からは100箱あまりを送りました。尾畑までご連絡をお待ちしています。

「シロチドリ」の原稿大募集！！

○次号（19号 97年11月発行）の特集は「ジョウビタキ、ツグミ」です。

ジョウビタキ、ツグミにまつわる話なら何でもOK！ 例えば…

あなたの街でジョウビタキ、ツグミの初認は？

面白いジョウビタキ、ツグミの生態、ジョウビタキ、ツグミ今昔

○「夏鳥が減った？」と言われていますが、あなたのフィールドではいかがですか？

○支部への要望、鳥、自然について日頃思うこと…

お手紙に書いて、たくさんお送り下さい。

○原稿は随時受け付けています。

編集部一同待っています。

○原稿の送り方

(1)郵送	:	谷本勢津雄 宛
(2)F A X	:	谷本勢津雄 宛
(3)電子メール	:	吉居 瑞穂 宛

編集後記

またまた編集作業に遅れが出てしまいました。年？のせいかわらば出てしまい昼間はいいのですが夜になると遅くまで起きていられません。(単なる言い訳?) 今度こそ! 今度こそは! と思っておりますのでどうかご容赦。またまた探鳥地マップは次号まで持ち越しです。先日行った大台調査にてまたまた密猟者を発見してしまい、おとり3羽(コマドリ、ウグイス、ルリビタキ)を放鳥させました。(ルリビタキは高橋副支部長の手を煩わせ暫く預かっていただきました。) 今度は市川副支部長、前沢理事の同行があったため大変心強かった。この場所は一度徹底的にパトロールしなくてはならないのかなーと思っています。シギ、チドリの観察記録もお待ちしています。金剛川ではコアオアシシギ、キリアイ、アカアシシギなど少し珍しいシギが見られました。

カット

鹿島素子 小坂里香

しろらどり第18号

1997年8月発行

表紙絵 小松康成 題字 濱田 稔

編集 谷本勢津雄 〒

TEL

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館 印刷 〒510-13 三重郡菟野町田口1903-3